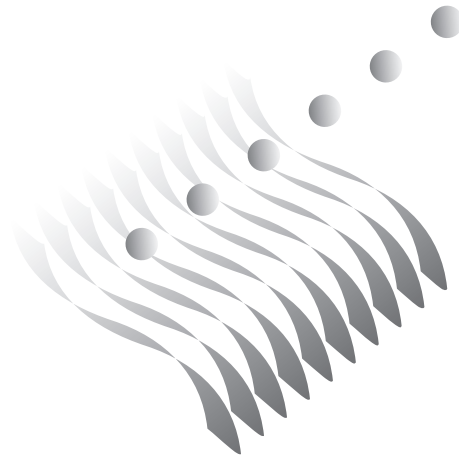


第2章

小学生の学習到達度

- 「学習到達度に関する調査」の分析より -



第1節 算数

1. 出題のねらい

1. 調査の目的

算数にかかわる内容がどの程度身についているかの実態を把握し、それを公表することにより、算数教育の一層の充実・発展を願い実施することとした。

なお、調査にあたっては、平成14年度より新学習指導要領が本実施となることも勘案し、経年比較に重要と思われる内容についても考慮した。

2. 調査方針

本調査は、算数にかかわる内容をかたよりなく調査することを基本とし、第4学年の内容を第5学年児に実施することとした。

調査内容として、学習指導要領で示されている、数と計算・量と測定・図形・数量関係の4領域について行う。

3. 調査内容とそのねらい

①数と計算

整数・小数・分数のそれぞれの概念理解についての実態把握は、問題数が膨大になるため今回の調査から削除することとした。別途調査する必要があると考えている。

計算技能は、新学習指導要領に示されているもので構成した。しかし、基礎的な計算力をみるため、新学習指導要領で削減されたが、小数第2位までである減法計算を1題出題した。今後の調査において、発展的に考え計算することができるかをみるとともに、小数第1位までの計算でよいかを検討する資料とするこ

とをねらっている。

②量と測定

第4学年で初めて学習する面積について重点的に調査することとした。ア)知識・理解として長方形の求積公式を書く問題、イ)求積に必要な数値をみつけ、公式を適用して求積する問題、ウ)複合図形の面積を工夫して求める問題、エ)複合図形の面積の求め方を式表現と関連づける問題から構成し、面積単元で身につけさせたい力を総合的に把握することとした。

③図形

ア)定義や性質に基づいて正三角形を弁別する力をみる問題、および、イ)二等辺三角形を定義や性質に基づいて証明する問題で構成し、論理的に筋道を立てて説明する力をみるために記述式とした。

④数量関係

この領域における第4学年の特徴は、伴って変わる2つの数量の関係を調べたり、表したりする学習である。そこで、ア)1つの数量が変化するとそれに伴って変化する他の数量(依存関係にある2量)を発見する問題、イ)2つの数量の関係からきまりを発見する問題、ウ)そのきまりを発展的に活用して立式し課題を解決する問題で構成し、伴って変わる2つの数量の関係を相対的にとらえる力を調査することとした。

4. 調査内容を決定するにあたって

本調査を実施するにあたり次の事項について検討を加えた。

第4学年の内容を洗い出した上で、45分以内で実施することが可能な問題数に絞り込む。

その際、4領域について出題することは、異論なく決定することができた。一方、知識・理解、表現・処理についてはペーパーによる出題も可能であるが、数学的な考えについては、評価内容と評価方法について議論を重ね、採点基準を明確にすることにより、記述式をとることとした。

また、関心・意欲・態度については、各問

ごとに意識にかかわる調査項目を検討したが、その傾向が把握しにくいことから、今回は削除し、別途実施している「学習に関する意識・実態調査」との関連を読み取ることとした。

なお、予備調査を行い、設問の妥当性と信頼性を高める検討も行った。

(八木義弘 ベネッセ教育研究所顧問)

出題の方針（算数・国語共通）

（1）問題作成の基本

- ①現行の学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで測定することが適当な内容項目について調査する。
- ②新しい学力観が重視する自ら学ぶ意欲・思考力・判断力・表現力などの資質や能力を把握する問題を含むテストを作成する。
- ③教科の目標の実現状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点にわたって把握する。ただし、「関心・意欲・態度」については、問題作成における技術上の制約があるため、同時に行う「学習に関する意識・実態調査」で調べることとし、テストには含めない。

（2）問題の範囲・程度

- ①調査実施時点で各対象校が履修済みの内容で問題を作成する。すなわち、小学5年生

には4年生、中学2年生には1年生までの内容とする。

- ②問題範囲は、対象学年の学習指導要領を基準とし、出題領域がバランスよく適切に配置されるよう配慮する。また、問題は、学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容が身につけているかを確認するのに必要な程度で作成する。
- ③問題量は、1教科について通常1単位時間で終了できる量にする。

（3）出題形式・採点

- ①解答過程の説明や作文による解答など、記述式の解答となる出題も行う。
- ②評価については、採点基準をあらかじめ設けて採点時に記号化し、統計的な処理が可能なものにする。

2 . 通過率・得点分布

1 . 通過率

表2 - 1 - 1 は、設問別の通過率をまとめたものである。あわせて、設問の領域と出題内容を示した。【数と計算】、【量と測定】、【図形】の3領域については、21問中17問の通過

率が60～80%台となっている。ただし、除法の性質を尋ねた②の9.3%は気になるところである。算数のさまざまな手続きやきまりの持つ意味を尋ねるという出題形式に制約された面もあるだろうが、他の設問の通過率と比較すると非常に差の大きい結果となっている。一方、【数量関係】領域は、通過率にばらつ

表2 - 1 - 1 算数の設問別通過率

(%)

大問 - 小問	領域	内容	通過率
① (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	数と計算	整数の乗法	81.0
		整数の乗法	87.4
		整数の除法	77.5
		小数の加法	73.4
		小数の減法	68.6
		小数の減法	57.5
		小数の乗法	73.0
		小数の除法	80.9
		分数の加法	83.5
		分数の減法	78.4
②	数と計算	除法の性質	9.3
③ (1) (2) (3) (4)① (4)② (4)③ (4)④	量と測定	長方形の面積の公式	83.0
		長方形の求積	87.5
		複合図形の求積	65.2
		複合図形の求積と式	71.5
		複合図形の求積と式	59.4
		複合図形の求積と式	66.0
		複合図形の求積と式	67.3
④ (1) (2)	図形	正三角形の判断	78.5
		二等辺三角形の証明	74.8
⑤	数量関係	変化する数量	70.8*
⑥	数と計算	整数の除法に関わる変数	49.3
⑦ (1) (2) (3)	数量関係	依存関係にある2つの数量	69.1
		依存関係にある2つの数量のきまりの発見	45.0
		依存関係にある2つの数量のきまりの発見	33.3

*印 2つ以上の数量をみつけられた正解が50.7%、1つの数量をみつけられた正解が20.1%。

きがみられ、変化する数量を尋ねた⑤は70.8%であるが、2つの数量のきまりを尋ねた⑦は(2)45.0%、(3)33.3%となっている。先述の②と同様に、意味を問う出題において通過率の低さが目立つ。

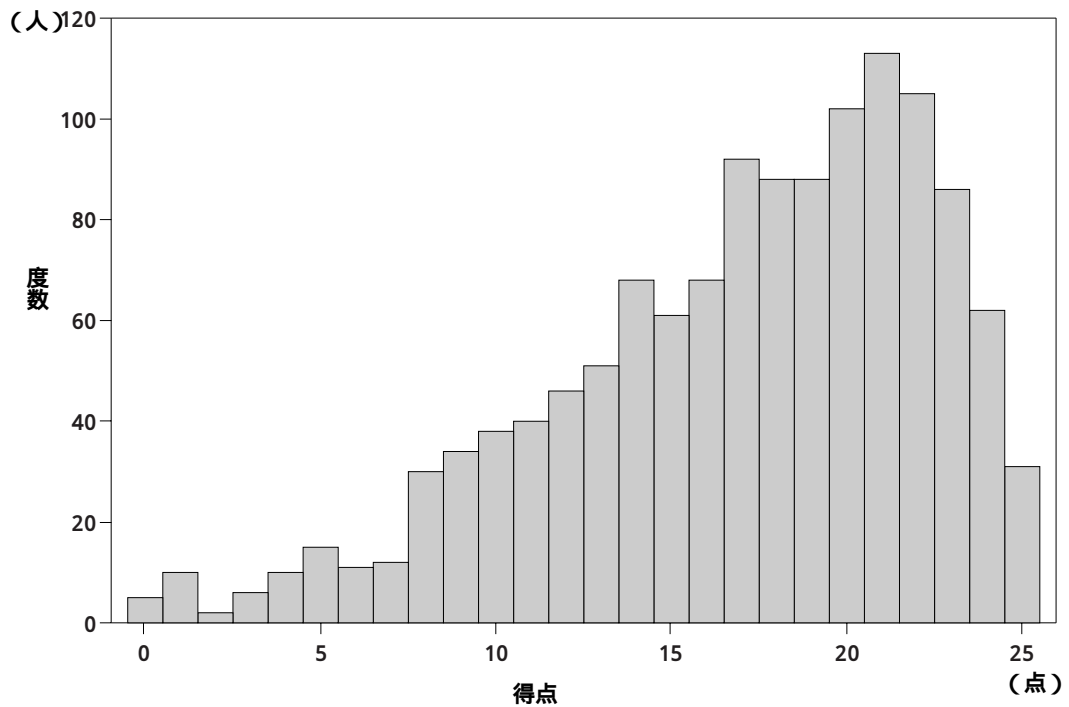
を1点として個人の得点を算出した。算数は、右に歪んだ山型の分布を示している。平均点は16.9点(25点満点)、標準偏差は5.41であった。

(諸田裕子 お茶の水女子大学大学院博士課程)

2. 得点分布

図2-1-1は、算数の得点分布を示したものである。いずれの問題も、通過した場合

図2-1-1 算数の得点分布



資料 調査票（到達度テスト・小学5年生算数）

算数

1 次の計算をして、 に答えをかきましょう。

(1) 74×68

5032

(2) 279×4

1116

(3) $395 \div 48$

※商は整数で求めて、あまりも出しましょう。

8 あまり11

(4) $28.5 + 3.9$

32.4

(5) $98.3 - 19.7$

78.6

【分野】数と計算

【内容】整数の乗法

【出題のねらい】2位数に2位数をかける乗法の計算をする。

【分野】数と計算

【内容】整数の乗法

【出題のねらい】3位数に1位数をかける乗法の計算をする。

【分野】数と計算

【内容】整数の除法

【出題のねらい】3位数を2位数でわる除法（あまりあり）の計算をする。

【採点基準】 $8 \cdots 11$ も正解。

【分野】数と計算

【内容】小数の加法

【出題のねらい】 $\frac{1}{10}$ の位までの小数の加法の計算をする。

【分野】数と計算

【内容】小数の減法

【出題のねらい】 $\frac{1}{10}$ の位までの小数の減法の計算をする。

(6) $7.04 - 6.3$

0.74

(7) 83.7×6

502.2

(8) $76.8 \div 8$

※わり切れるまで計算しましょう。

9.6

(9) $\frac{6}{7} + \frac{5}{7}$

 $1\frac{4}{7}$

(10) $1\frac{3}{5} - \frac{4}{5}$

 $\frac{4}{5}$

【分野】数と計算

【内容】小数の減法

【出題のねらい】 $\frac{1}{100}$ の位の小数と $\frac{1}{10}$ の位の小数の減法の計算をする。

【分野】数と計算

【内容】小数の乗法

【出題のねらい】乗数が整数である場合の小数の乗法の計算をする。

【分野】数と計算

【内容】小数の除法

【出題のねらい】除数が整数である場合の小数の除法の計算をする（わり進み）。

【分野】数と計算

【内容】分数の加法

【出題のねらい】同分母分数の加法の計算をする（真分数+真分数、和が1より大）。

【採点基準】仮分数 $\frac{11}{7}$ も正解。

【分野】数と計算

【内容】分数の減法

【出題のねらい】同分母分数の減法の計算をする（帯分数-真分数、繰り下がりあり）。

資料 調査票（到達度テスト・小学5年生算数）

- 2 次の文章の意味が通るように、ア～エの中から正しいものを1つ選び、記号に○をつけましょう。また、□の中にあてはまる数をかきましょう。

2400÷80 の計算をするとき、
 $240\cancel{0}\div8\cancel{0}$ のように 0 を消して、
 $240\div8=30$ と計算することができます。
 これは、わられる数とわる数の

- ア. 両方に同じ数をたしても
 イ. 両方から同じ数をひいても
 ウ. 両方に同じ数をかけても
 エ. 両方を同じ数でわっても

商は変わらないというきまりを使ったものです。

このときの同じ数とは 10 です。

- 3 次の (1)～(4) の問いに答えましょう。

- (1) 長方形の面積を求める公式を にかきましょう。

長方形の面積 = たて (の長さ) × 横 (の長さ)

【分野】数と計算

【内容】除法の性質

【出題のねらい】除法について成り立つ性質をもとに、 $2400\div80$ の計算の仕方を理解している。

【採点基準】

- ・ウに○をし、 $0.1\left(\frac{1}{10}\right)$ を記入しているものも正解。
- ・完答のみ正解。

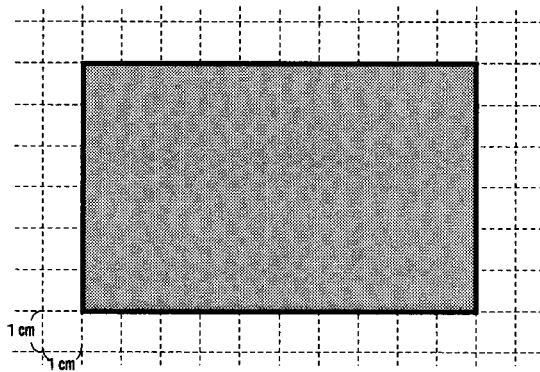
【分野】量と測定

【内容】長方形の面積の公式

【出題のねらい】長方形の面積を求める公式を知っている。

【採点基準】「横 (の長さ) × たて (の長さ)」も正解。

(2) 下の長方形の面積を求めます。□に式と答えをかきましょう。



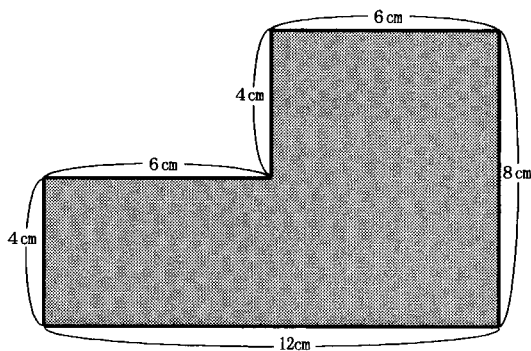
1目もりは1cmを表します。

式 【解答例】

$$6 \times 10 = 60$$

答え 60 cm²

(3) 下の図形の面積を求めます。□に式と答えをかきましょう。



式 【解答例】

$$4 \times 6 = 24$$

$$4 \times 12 = 48$$

$$24 + 48 = 72$$

答え 72 cm²

【分野】量と測定

【内容】長方形の求積

【出題のねらい】公式を適用し、長方形の面積を求める。

【採点基準】

- ・式と答えが両方できて正解。
- ・ただし、式で60が導き出せていて、単に答えを書き忘れているものは許容。

【分野】量と測定

【内容】複合図形の求積

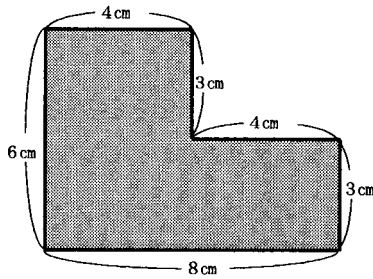
【出題のねらい】既習の長方形と関連づけて、複合図形の面積を求める。

【採点基準】

- ・式と答えが両方できて正解。
- ・ただし、式で72が導き出せていて、単に答えを書き忘れているものは許容。
- ・【解答例】以外に、以下も正解。
 $4 \times 6 = 24$ $8 \times 12 = 96$
 $8 \times 6 = 48$ $4 \times 6 = 24$
 $24 + 48 = 72$ $96 - 24 = 72$
- ・その他に、3分割して足す、倍積して求める、一部分を移動する等も正解とする。

資料 調査票 (到達度テスト・小学5年生算数)

(4) 右の図形の面積は、いろいろなやり方で求めることができます。



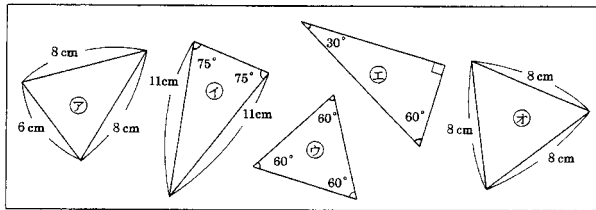
<図> と合っている <式> を選んで、●と▲をすべて——線で結びましょう。

<図>

<式> $3 \times (8+4)$ $6 \times 8 - 3 \times 4$ $6 \times (8+4) \div 2$ $3 \times 4 + 3 \times 8$

Diagram 1 (top-left cut) is connected to $6 \times 8 - 3 \times 4$ (triangle).
 Diagram 2 (top-right cut) is connected to $3 \times 4 + 3 \times 8$ (triangle).
 Diagram 3 (bottom-left cut) is connected to $3 \times (8+4)$ (triangle).
 Diagram 4 (bottom-right cut) is connected to $6 \times (8+4) \div 2$ (triangle).

4 下に、㉑から㉕までの5つの三角形があります。この5つの三角形を見て答えましょう。



(1) ㉑から㉕の三角形で、正三角形ならば○、正三角形でなければ×を下の()にかきましょう。

- ㉑ (×) ㉒ (×) ㉓ (○)
 ㉔ (×) ㉕ (○)

【分野】量と測定

【内容】複合図形の求積と式

【出題のねらい】複合図形の面積の求め方とその面積を求める式を読み取る。

【採点基準】それぞれ別個に採点する。

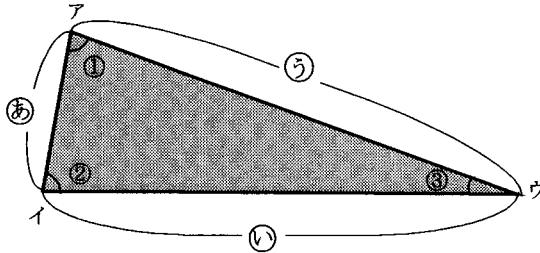
【分野】図形

【内容】正三角形の判断

【出題のねらい】定義や性質に基づいて正三角形を判断する。

【採点基準】完答のみ正解。

(2) 下の三角形は二等辺三角形です。その理由を、ことばや図を使って下の□にかきましょう。



理由

【解答例】

①と⑤の2つの辺の長さが等しいから。

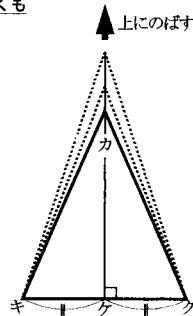
5 右の図のように二等辺三角形カキクの頂点カを上^へにのばして形を変えていくとき、形のほかに変わっていくものには何があるでしょう。

下の□にできるだけたくさんかきましょう。

変わっていくもの

【解答例】

- ・辺カキ、辺カクが長くなる。
- ・角キ、角クが大きくなる。
- ・面積が大きくなる。



【分野】 図形

【内容】 二等辺三角形の証明

【出題のねらい】 定義や性質を用いて二等辺三角形であることを説明する。

【採点基準】 以下のような内容を書いているものも可とする。

- ・2角が等しい (①と②の角の大きさが等しいことについて書いている)。
- ・2辺と2角が等しい (⑥と⑤の長さ^と①と②の角の大きさが等しいことの両方について書かれている)。
- ・三角形の1辺(⑥)のみが違う長さである (正三角形との違いについて書いている)。
- ・三角形の1つの角(③)だけ違う大きさである。
- ・中央で折ると重なる。

【分野】 数量関係

【内容】 変化する数量

【出題のねらい】 依存関係にある数量を発見する。

【採点基準】 辺の長さについて触れているもの、角の大きさの変化について触れているもの、面積の変化について触れているものは、いずれも正解。その他変化について触れているものも、意図がわかれば正解とする。

資料 調査票（到達度テスト・小学5年生算数）

- 6 次のわり算で商が十の位から立つのは、□の中にとどのような数が入るときでしょうか。あてはまる1けたの数字をすべてかきましよう。

$$27 \overline{) 2 \square 0}$$

あてはまる数字

7, 8, 9

- 7 次の図のように、真ん中に・点のある長方形があります。この長方形は、左と右に0から12までの目もりがあります。下の<説明>を読んだあと、図を見て答えましよう。

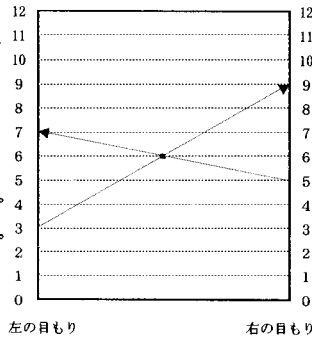
<説明>

左の目もりの数と右の目もりの数を・点を通るように直線で結びます。

左の3から線を引くと、右の9に着きます。

右の5から線を引くと、左の7に着きます。

このほかにもいくつかやってみて、表にまとめてましよう。



- (1) 下の表のあいているところ2か所に、あてはまる数をかき入れましよう。

表	左の目もりの数	3	4	7	10	11
	右の目もりの数	9	8	5	2	1

- (2) 上の表を見て、「左の目もりの数」と「右の目もりの数」の関係について気づいたことを、ことばや式などで下の□にかきましよう。
気づいたことがいくつもあるときは、すべてかきましよう。

気づいたこと

【解答例】

左の目もりの数と右の目もりの数をたすと12になる。

【分野】数と計算

【内容】整数の除法に関わる変数

【出題のねらい】除数と商の関係から被除数の大きさを判断する。

【採点基準】

- ・7, 8, 9をすべて書いて正解
- ・数字の順序は問わない。

【分野】数量関係

【内容】依存関係にある2つの数量

【出題のねらい】図をもとに依存関係にある2量の数値を求める。

【採点基準】完答のみ正解。

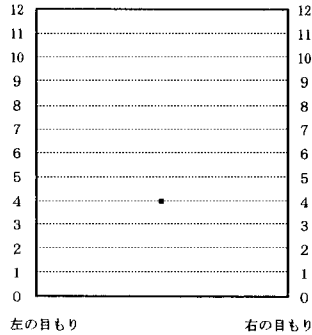
【分野】数量関係

【内容】依存関係にある2つの数量のきまりの発見

【出題のねらい】依存関係にある2量の関係のきまりを言葉やかんたんな言葉の式に表現する。

【採点基準】「左の目もりの数が1つ増えると、右の目もりの数が1つ減る」といった内容の解答も正解。「1つ」以外の数も可。また、増減について触れていれば、数に触れていなくても可。

- (3) それでは、右の図のように、点を4のところに変えると、「左の目もりの数」と「右の目もりの数」はどのような関係になりますか。気づいたことをことばや式などで下の□にかきましょう。



気づいたこと

【解答例】

左の目もりの数と右の目もりの数をたすと8になる。

問題はこれで終わりです。

【分野】 数量関係

【内容】 依存関係にある2つの数量のきまりの発見

【出題のねらい】 依存関係にある2量の関係のきまりを発見し、式などで表現する。

【採点基準】

- ・「9以上の数字を使わなくなる」「1～8の数字しか使わなくなる」など変域について触れているものも正解。
- ・「左の目もりの数が1つ増えると、右の目もりの数が1つ減る」といった内容の解答も正解。「1つ」以外の数も可。また、増減について触れていれば、数に触れていなくても可。

3. 調査結果解説

1. 数と計算

①(1)では、2位数に2位数をかける乗法の計算ができることをねらいとした。通過率は、81.0%であった。誤答として、「5022」「5042」が多く、途中の繰り上がりのたし算の計算間違い、あるいは乗法九九の間違いをしたものと考えられる。これまでに学習したたし算や乗法九九などを基に計算の方法を考えたことを通して、計算技能を確実に身につけるような指導が望まれる。

①(2)では、3位数に1位数をかける乗法の計算ができることをねらいとした。通過率は、87.4%であった。誤答として、「1216」がもっとも多く、(1)と同様に途中の繰り上がりのたし算の計算、あるいは乗法九九の間違いをしたものと考えられる。

①(3)では、3位数を2位数でわる除法(あまりあり)の計算ができることをねらいとした。通過率は、77.5%であった。誤答として「82あまり14」「8あまり1」が多く、商を立てる位置、あるいは計算途中のひき算の間違いをしたものと考えられる。商を立てる位の間違いに対しては、数を相対的にみる「単位の考え方」を十分深める指導が大切である。また、自ら間違いを訂正できるように検算の習慣化を図りたい。

①(4)では、10分の1位までの小数の加法の計算ができることをねらいとした。通過率は、73.4%であった。誤答のうち約半数が「3.24」でもっとも多く、小数のかけ算と混同し、小数点の位置を間違えたものと考えられる。形式的な筆算の仕方に指導の重点が置かれ、意味の指導がおろそかになっていることが予想される。

①(5)では、10分の1位までの小数の減法の計算ができることをねらいとした。通過率は、68.6%であった。誤答のうち4割弱が「7.86」

でもっとも多く、その原因は(4)と同様に小数のかけ算と混同し、小数点の位置を間違えたものと考えられる。

①(6)では、100分の1位までの小数の減法の計算ができることをねらいとした。通過率は、57.5%であった。誤答として、「0.641」「6.41」が多く、小数点をそろえずに計算しているものと考えられる。小数のしくみなどを基にして、単位をそろえて計算する意味を理解させる指導が望まれる。

①(7)では、乗数が整数である場合の小数の乗法の計算ができることをねらいとした。通過率は、73.0%であった。誤答のうち「5022」がもっとも多く、小数点をつけ忘れたためだと考えられる。

①(8)では、除数が整数である場合の小数の除法の計算ができることをねらいとした。通過率は、80.9%であった。誤答のうち4割強が「96」で3割強が「空欄」である。小数点のつけ忘れと、小数のわり算に苦手意識を持っていることが考えられる。ここでは、計算の意味を考え、乗法九九やひき算などを基にして、自ら計算の方法を考え出していくような指導が有効である。

①(9)では、同分母分数の加法の計算ができることをねらいとした。通過率は、83.5%であった。誤答のうちで、 $1\frac{1}{7}$ が圧倒的に多い。

これは、和の $\frac{11}{7}$ の仮分数を帯分数にすると、分子の11を機械的に帯分数の形にしてしまったものと考えられる。単位分数などを基にして分数の意味を確認し、深める指導が必要である。

①(10)では、同分母分数の減法の計算ができることをねらいとした。通過率は、78.4%であった。誤答のうちで、 $\frac{9}{5}$ が圧倒的に多い。これは、引かれる数の $1\frac{3}{5}$ の帯分数を単に $\frac{13}{5}$ と仮分数に表してしまったことで、間違えた

ものと考えられる。(9)と同様に単位分数などを基にして分数の意味を確認し、深める指導が必要である。

②では、除法について成り立つ性質を基に、 $2400 \div 80$ の計算を $240 \div 8$ と計算できることの意味理解をねらいとした。通過率は、9.3%と大変低い結果であった。この問題は、完答で通過とした。誤答のうち記号選択（正解「工」）のみ正解は、約4割いるが、半数以上は、記号選択と数字ともに不正解であった。数字記入用の の中に「工」と記号を書いた児童が、1割強いた。これは、問題文の読み間違え、あるいは、調査票の出題形式上の問題もあるかもしれない。記入方法を間違えた児童も含めると記号選択の正解は、約6割である。この結果から、わり算の計算の手順はわかっても、その意味理解が十分にされていないことが予想される。数字の誤答の中で、同じ数を「0」としている児童が多いことからそのことが言えよう。このわり算の性質は、整数のみならず、小数、分数などさまざまな場面で活用される大切な性質である。この整数の計算場面で意味を基にして手順とつなげる指導が大切である。

⑥では、除数と商の関係から被除数の大きさを判断することをねらいとした。通過率は、49.3%であった。誤答の中で「7」と答えたのがもっとも多く、「すべてかきましょう」という問題文を読み飛ばしていることが考えられる。また、誤答で「8, 9」と答えた児童は1割強で、わられる数が「270」のときに気づけなかったことが考えられる。計算練習に加え、数範囲を求めるような問題作りなどの指導を取り入れるようにすると有効である。

2. 量と測定

③(1)では、長方形の面積を求める公式の知識・理解をねらいとした。通過率は、83.0%であった。誤答のうち「空欄」の占める割合が半数以上であり、「公式」そのものを理解

していないことが予想される。また、「 6×10 」など実際の数式によって解答した児童は、同じ理由あるいは、問題文の読み飛ばしと考えられる。求積公式のよさを感じさせるような指導が有効である。

③(2)では、公式を適用し、長方形の求積ができることをねらいとした。通過率は、87.5%であった。誤答のうち半数以上が「空欄」である。辺の長さの数値が示されていないため公式にあてはめることができなかつたことが考えられる。また、面積は、単位面積の幾つ分で数値化して表すことができるといった基本的なことが十分理解されていなかったことが考えられる。

③(3)では、既習の長方形と関連づけて複合図形の面積を求めることをねらいとした。通過率は、65.2%であった。誤答で多いのは、全体から部分を引かなければならないところを逆に加えてしまっているものや、分割して求める考え方で、分割した長方形の面積を求める辺の長さを間違えたものである。与えられた図形を既習の形に分割してみたり、補ってみるによって既習の形にみたりできる豊かな図形感覚を深めるように作業的・体験的な活動を積極的に指導に取り入れるようにすると有効である。

③(4)では、複合図形の面積の求め方とその面積を求める式を読み取ることをねらいとした。通過率は、左から71.5%、59.4%、66.0%、67.3%であった。図で示された求積の考え方と式を読み取り結びつけるには、(3)同様に作業的・体験的な活動を積極的に指導に取り入れるようにすると有効である。

(神田恭司 東京学芸大学附属小金井小学校教諭)

3. 図形

出題のねらい

④では、定義や性質に基づいて、正三角形と二等辺三角形を判断できるかをみた。(1)の正三角形の判断は、選択 つけによって、(2)の二等辺三角形の判断は、理由を記述させて

評価しようとした。記述させることにより「論理的な思考力や表現力」をも評価しようとした。

解答傾向

(1)正三角形の判断は通過率が約80%である。正三角形でないものに×をつけなかった解答、あるいは正三角形のうち1つにしか×をつけなかった解答も多く、おおむね正三角形の判断がよくできていることがわかった。

(2)二等辺三角形の判断も、定義を踏まえた「2つの辺の長さが同じ」という記述に類するものが多く、74.8%の通過率でありおおむね良好であった。傾向としては、二等辺に付加して、「1つの角度がちがう」とか「もう1つの辺の長さはちがう長さである」「2つの角度が同じ」といった性質を書き加える傾向があった。「2つの角が同じであるから」といった、二等角のみをあげた判断理由は少なかった。また、「2つの辺の長さだけが」と表現して、正三角形を除いた典型的な二等辺三角形を強調する記述が多くみられた。さらに、「～だから」といった、根拠を表現する論理的な言葉遣いも多くみられた。

誤答傾向、誤答例

(1)正三角形の判断の誤答として、㉞の8:8:6の二等辺三角形を正三角形として誤認したものが多くみられた。また、二等辺三角形を判断し選択してしまったものもみられた。その他の誤答は、判断理由が三角形の定義や性質以外のものである。たとえば、辺の長さや角度の大きさの両方が示されている㉞を選択したり、直角に目をつけて直角があるものに×をしたり、明らかに尖った三角形にみえる㉞に×をしてそれ以外は×にしなかったものなどである。また、×をつけずに「空欄」にしたものや、1つ選択しただけのもの、×と×を逆に記したものなど、答え方の誤解もあった。

(2)二等辺三角形の記述による判断の誤答については、「むきがあるから」とか、「2本の線の長さが同じだから」「等しくなっているから」とか、二等辺の辺についての表現

をうまくできないものが多かった。また、「すべての辺の長さが同じじゃない」といった正三角形の判断と誤解しているものもあり、前問題とのつながりを意識した記述があった。また、設問の「二等辺三角形です」を疑い、辺の長さや角度の大きさを実測して二等辺三角形ではないと判断、記述しているものがあった。さらに、「2つの辺の長さを調べればいい」といった方法のみを述べたものがあった。

指導のポイント

誤答からわかるその原因は、見た目の判断、表現力不足、そして設問の誤解である。そこで、定義に則した文言を具体的な操作活動を通して示すなど、映像的に言語とその意味するものを対応させた言語理解をすすめることが重要だ。また、いくつかの三角形だけで判断するのではなく、三角形を動的に見せて、一般的な性質を確認したり、正三角形と二等辺三角形の相互関係を見せたりすることが重要である。理由を表現する言葉遣い「～だからです」もきちんと指導していきたい。

4. 数量関係

出題のねらい

㉞㉞では、いわゆる『関数の考え』ができているかどうかをみた。『関数の考え』とは、「変化や対応の規則性に着目して問題を解決していく考え」である。文部科学省は、その『関数の考え』を育てていく際に、まず変化をとらえ、2つの変化量の関係に着目し「依存関係を調べることを特に「関数の第一歩」とし、重要視している。そこで、ここでは、「変化する数量に気づくこと」と、依存関係を調べ、そのきまりに気づき、その「きまりを表現すること」ができるか調査した。

解答傾向

㉞の「変化する数量に気づくこと」は、70.8%の児童が通過した。しかも、その記述の多くは、複数の変数に気づいている。そして「力が上がっていくと、辺力キの長さや力

クの間がのびていく」や、「辺カキと辺カクの長さののびて、角キと角クの角度が広がる」といった、1つの変化する数量に伴って変化するもう1つの数量を具体的に記述しているものもいくつもあった。さらに、「形はいつも二等辺三角形だ」といった変化しないものを指摘する記述もあった。

⑦の「きまりを表現すること」については、半数以上の児童が記述できなかった。(1)のきまりに気づき数値を求めることは69.1%ができていたのだが、そのきまりをきちんと記述できたのは、(2)が45.0%、(3)が33.3%だけであった。きまりの表現には、「片方が増えると片方が減る」といった2つの数量の変化の様子を表現するものと、「たすいつも12になる」「真ん中の数の2倍になっている」といった2つの数量の対応の様子を表現するものがあった。対応の様子を「左+右=12」といった子どもなりの式表現もいくつかみられた。

誤答傾向、誤答例

⑤の「変化する数量に気づくこと」では、「形が細くなってくる」とか、「長さ」「広さ」とか、曖昧で不明確な表現があった。

⑦の「きまりを表現すること」では、(1)関係のきまりに気づき、数値を表に書き入れる

問題については、単なる計算間違いがあっただけで、できないものは「空欄」が多かった。(2)、(3)のきまりを記述などで表現する問題については、「右が動く」とか、「倍になっていた」といった、どこの何をさしているか不明確で数値を使わない表現が誤答として多かった。

「ふしぎだ、なんでかな」「数字の所へ必ず行く」「定規を当てるとすぐわかる」といった、この場面に対する情意的な記述もあった。

指導のポイント

誤答例では、変量に気づくことでもきまりに気づくことで、気づいてはいるが、気づきを適切に表現できないことがわかった。そこで、変化する数量なり変化のきまりを、よりよい表現に高めていくことが指導のポイントとなる。そのためには、まずは、子どもの感じたままの直感的な、あるいは、ひらめいたままの直観的な、素直な表現を出させ、それを、より簡潔に、より明確に、そしてより統合されたものへと高めていく指導が重要である。その際に、必要に応じて形式的な表現をモデルとして指導することも重要である。

(黒澤俊二 東京学芸大学附属世田谷小学校教諭)

4 . コメント

[1]

杉山 吉茂 (早稲田大学教授)

1 . 全体の傾向

全体の成績はほぼ満足できるものだと思う。通過率70%以上の問題が全体のほぼ半分を占めており、通過率50%を切る問題が少ない。また、得点の分布も右よりの1つ山であり(図2-1-1)、全体により成績だと言える。この分布は、この年代の子どもたちが、算数の学習に対する意欲や自信を失っておらず、算数の学習をあきらめている子がまだ少ないことを示していると思う。

2 . 形式的に処理することはできる

全体には成績はよいが、そこにいくつかの傾向がみられる。

まず、成績のよい問題をみると、その多くが、処理の仕方を知っていて形式的に処理できるものである。数の計算、長方形の面積を求めること、正三角形を選ぶものなどはよくできている。成績のあまりよくない⑦でも(1)の問題はよくできている。

計算については、10問中8問が70%以上の成績であり、よくできていると言ってよいであろう。70%を切った2問は、小数の減法である。これは、減法が苦手なのに加えて、位をそろえることの指導が徹底していないことによるものであろう。平成14年度から施行される新学習指導要領では、小数の加法・減法が10分の1の位に限定されるので、この誤りは一層多くなるだろう。

小数の減法も含めて、同じような問題で次の調査をした場合、成績は落ちることが予想される。というのは、この調査の問題の中に

は、新学習指導要領では5年生で学習することになっている問題が含まれているからである。小数の乗除はまだしも、分数の加法・減法はできが悪くなることが予想される。小数の計算は、整数の計算と同じであり、小数点の処理が問題となるが、乗数が整数なので、整数倍を同数累加と考えれば、小数点の処理は適切にできるものと考えられる。

しかし、分数の加法・減法は、教科書には載せられなくなるので、今回よりもできが悪くなるように思う。現在、3年生で小数・分数を学習するときには、いずれも加法・減法ができることについて学習しているが、新学習指導要領では、分数について加法・減法ができることについての学習はしないことになっている。本当は、分数が数であることを理解させるためには、分数も加法・減法ができることを扱うべきであるのにそうになっていない。これは新学習指導要領の欠陥であるが、そのことを教師が知っていて、教室でその学習を少しでもしてくれれば、今回の問題もできるであろうが、扱わない場合が多いであろうから、できない子が出るにちがいない。

計算については、形式的な処理はよくできるが、その意味が必ずしもよく理解できているとは言えないということもみてとれる。特に②の成績が極端に悪いことに驚く。子どもたちは、機械的に0をとって計算しているにちがいない。

もっとも、この除法について成り立つ性質「除数、被除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても商は変わらない」は、平成元年の学習指導要領から入れられたものであり、定着していないためとも考えられる。それ以前は、この計算は、2400は10のかたまりが

240、80は10のかたまりが8だから、 $240 \div 8$ と計算してよいと説明されていたものである。平成元年以降は、上のわり算の性質を使って説明されるようになっていたはずであるが、0をとることだけが頭の中に残るように教えられているのかもしれない。

このわり算の性質は、大きな数のわり算だけでなく、小数のわり算でも、分数のわり算でも使えるものであるから、適宜機会を設けて指導したいものである。

3. きまりをみつける態度や力が不足

きまりをみつける力、きまりをみつけようとする態度が弱いように思われる。このことは、きまりをみつけ、そのきまりをみつけて解決することを求めている⑦のできがよくないことから言えることである。(1)の成績はまあまあとして(2)以下が悪いのは、(1)では、実際に定規を当ててできたものと思われる。きまりをみつけて解決していたわけではないにちがいない。きまりに目をつけていれば(2)はできたはずだからである。現象が読めていない、きまりがみつけれられていないから、(2)(3)のできがよくないのは当然である。

子どもの頭の中に、算数は計算などの手続きを覚えて、その手続きにしたがって処理するという算数観ができていないのだろうか。⑤のように、ともに変わっていくものをみつけることもできていない。これも含めて、算数でも現象を観察し、法則や性質をみつける活動をもっと多くするようにしたい。

また、1つ1つていねいに考えていく力と態度も弱いように思う。正三角形をすべて選びだす④(1)は、選択肢が与えられているのであるから、1つ1つていねいに考えていけばできるはずのものであるし、あてはまる数をすべて選びだす⑥なども、1つ1つの数についていねいに調べればすべてを列挙できる

はずである。そうした態度を育てることも大切にしたい。

4. よみとる力が弱い

複合図形の面積を求める問題③のうち、(4)はもっとできてよいと思われるのにできていない。これは、図の解釈ができないこと、あるいは、式がよめないことに原因があるように思われる。それは、算数の学習で、そのような場が少ないこと、そのようなことが問われることが少ないことを意味していよう。

「式をよむ」ことは、平成元年の学習指導要領から入れられたことである。問題場面を式に表すことができることも大切であるが、書かれた式をよむことも大切にしたいからである。「式をよむ」ことの中身はいろいろあるが、少なくとも、具体的な場面にあてはめることができるようでありたい。この問題は、そのことをねらったものである。

できのよくなかった②も、見方を変えれば式をよむことができないことをも示している。たとえば「ア．両方に同じ数をたしても」と式をみることができるかできないか、「イ．両方から同じ数を引いても」と式をみることができるかと試していけば答えられるはずのものだからである。観点を与えられても、式をそのようにみることができないということはこの問題の成績は示しているとも言える。

「よむ」ことは式に限らないことである。グラフの学習も、グラフを書くことで終わりがちであるが、できたグラフをよむことを大切にしたい。グラフにしなかったときにみえなかった何がみえるかを考えたり、関連したグラフを一緒にみて、何か新しいことを発見することは大切なことであるが、なかなかされていないことである。心がけてほしいと思う。

[2]

伊藤 説朗 (東京学芸大学教授)

1. 各問の通過率から

1. 80%~90%の高い通過率の問題群(6問)

計算(4問) ①(1) 74×68 , (2) 279×4 ,
(8) $76.8 \div 8$, (9) $\frac{6}{7} + \frac{5}{7}$ 《コメント》基本的な計算技能は十分にマスターしている。特に、(小数) \div (1位数)も期待以上のできである。

③(1)(2)長方形の面積(2問)

《コメント》公式、適用ともに単純であることもあり、十分習熟している。

2. 70%~80%のやや高い通過率の問題群(8問)

計算(4問) ①(3) $395 \div 48$ (あまりあり),
(4) $28.5 + 3.9$, (7) 83.7×6 , (10) $1\frac{3}{5} - \frac{4}{5}$ 《コメント》やや複雑な計算技能であるが、かなりよく習熟しているとみてよい。特に、最初のわり算では、「 $400 \div 50 = 40 \div 5 = 8$ 」と見積もる力が問われるところであろう。小数のたし算は予想以上に低い通過率である。小数のかけ算「 83.7×6 」は繰り上がりが波及するので、ケアレスミスが起こりやすい。

③(4)L字型の複合図形の面積(1問)

「 $6 \times 8 - 3 \times 4$ 」

《コメント》長方形を組み合わせた図形の面積の求め方と複雑な式とを結びつけることがよくできている。式を読む力もついている。

④(1)正三角形の弁別、(2)二等辺三角形の定義と性質

《コメント》上のいずれもよくできている。

⑤図形の変形と伴って変化する数量

《コメント》2つ以上わかった者が50.7%、1つだけが20.1%ということで、ほぼ予想される通過率である。

3. 60%~70%のほどほどの通過率の問題群(5問)

計算(1問) ①(5) $98.3 - 19.7$

《コメント》繰り下がりが2回あり、ケアレスミスも少なくないであろう。求めた答えが正しいかどうかを確認する習慣をつけておけば、もっとよい通過率になるであろう。

③(3)L字型の複合図形の面積(1問)

「式と答え」

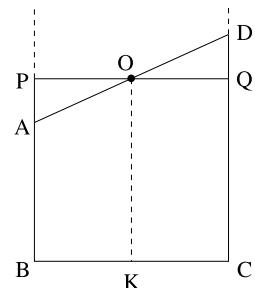
《コメント》これに続く次の3問と比べて、ほぼ予想される通過率であるとみてよいが、先の長方形の面積公式とその適用問題の通過率と比較すると、かなり低く、応用する力を伸ばすための指導の工夫が求められる。

③(4)L字型の複合図形の面積(2問)

「 $3 \times 4 + 3 \times 8$ 」, 「 $6 \times (8 + 4) \div 2$ 」《コメント》「 $3 \times 4 + 3 \times 8$ 」のような分割によって2つの長方形の面積を求めるやり方は多いと思われるが、「 $6 \times (8 + 4) \div 2$ 」は特殊な場合である。それにもかかわらず、式をよく読んで、図形の変形と結びつけている。よくできていると思う。出題形式が選択肢との組み合わせなので、当然ながら、1つ間違えると他の解答に影響する。このため通過率が下がった部分もあろう。

⑦(1)和が一定の変わり方

《コメント》実際にものさしを用いて直線を作図させて、目盛りを読んで解答させる、というのであれば、あまり意味のない問題である。ものさしを使わずに、フリーハンドで直線を描いて、見当をつけて解答する、というのであれば、これもまた奇妙な問題である。算数の問題として成り立つためには、次のような考察が不可欠である。



長方形の真ん中の点Oが与えられていることから、点Oを通り、BCに平行な直線とBAの延長およびCDとの交点をそれぞれP、Qとすると、

$\triangle OAP \cong \triangle ODQ$ ($OP = OQ$, $\angle P = \angle Q = \angle R$, $\angle AOP = \angle DOQ$) となることから、 $AP = DQ$ 。 $AB + CD = (OK - AP) + (OK + QD) = 2 \cdot OK$ (一定)。このような根拠を問うた上で、関係を導くことが必要である。ただし、これは5年生にはやや無理がある(上の問題では、左右の目盛りがいずれも同じ等間隔のものがつけられていると仮定した)。

4. 50%～60%のやや低い通過率の問題群 (2問)

計算(1問) ①(6)7.04 - 6.3

《コメント》通過率が低いのは繰り下がりのケアレスミスと思われる。ぜひ確かめの習慣をつけたいものである。

③(4)L字型の複合図形の面積(1問)

「 $3 \times (8 + 4)$ 」

《コメント》この変形も特殊な場合しか通用しない面積の求め方であり、通過率が下がったと思われる。

5. 30%～50%のかなり低い通過率の問題群 (3問)

⑥(3位数) \div (2位数)の商の立て方

《コメント》この種の計算技能を問う問題は、あまり価値がない。この程度の通過率でよしとしたい。

⑦(2)和が一定の変わり方

《コメント》先の問題の続きである。先のコメントを参照のこと。前問の通過率が69.1%なのに対して、続問で何らかのきまりを発見できた子が45.0%、つまり、前問の通

過者のうち約65%にすぎない点に注目すべきで、変化のきまりや対応のきまりを読み取ることの難しさを反映している。

⑦(3)和が一定の変わり方

《コメント》前出のコメントを参照のこと。(3)の問題では、点(・)の位置を決めるとき、「4のところ」となっているが、「4のところに真ん中」とするほうがよい。

6. 0%～10%の極端に低い通過率の問題 (1問)

②わり算のきまり

《コメント》「除法に関して成り立つ性質」は、第4学年で学習した内容である。これを用いて小数の除法計算を整数の場合と関連づけて処理してきた。それにもかかわらず、通過率が異常に低いのは、おそらく、計算の仕方として形式的に指導し、その根拠であるこの性質をきちんと指導してないため、用具的理解にとどまっていると思われる。このような状態では、既習事項を発展させて、数の範囲を拡張して計算の仕方を考え出すことは不可能である。このことは、新学習指導要領のねらいとしていることが大きな困難に直面することを予想させるに十分である。

2. 全体の得点分布から

20点前後に集中しており、よくできている。もう少し詳しくみると、18点～22点の範囲に約39%の児童が含まれている。一方で、問題が全体的にやさしかったにもかかわらず、13点以下の児童が約25%にも上る(図2-1-1)。基礎・基本をしっかりと身につけさせる学習やくり返し学習、個別指導などを一層充実させる必要がある。

第2節 国語

1. 出題のねらい

1. 学力の観点

学習到達度調査の実施にあたり、小学校国語においては、(1) 関心・意欲・態度、(2) 表現の能力、(3) 理解の能力、(4) 言語に関する知識・理解・技能の4観点の調査を予定したが、(1)の関心・意欲・態度を測定することについては、ペーパーテストでは限界があるとの判断から、今回は調査項目から除外することとした。今後の課題である。

2. 調査領域

(1) 音声言語、(2) 説明的文章、(3) 文学的文章、(4) 言語事項の4領域とし、新学習指導要領の実施を目前に控えているので、現行の学習指導要領とともに新学習指導要領における取り扱いにも対応できるように調査項目を作成した。

(1) 音声言語……『栄養士の話』を2回聞き、ア 話の要点を聞き取る力、イ 質問の内容のまとめを準備する力、ウ 相手の立場を考え質問する力、エ 自分の考えを持って表現する力を調査対象にした。要点を聞き取る力と自分の考えを持って表現する力に注目したい。

(2) 説明的文章……『飛び方のひみつ』について、ア 細部の正確な読み取り、イ 語句の意味、ウ 接続語の使い方、エ 段落相互の関係等を調査する。特に、文脈に即して細部に注意する力、段落相互の關係に気をつけて要点を読み取る力に注目している。説明的文章における「課題文」に対する「まとめ」との段落相互の關係に注意する力が大切である。

(3) 文学的文章……『この先ゆきどまり』の読み取りの問題である。ア 語句の意味、イ 細部の読み取り、ウ 心情の変化の読み取

り、エ 続き話の創作などを調査対象にした。文学的文章の読み取りでは、語句の意味、使い方、細部の読み取りに注意しながら、主人公の心情の変化を読み取ることが必要である。なお、内容の理解に基づいて続き話を創作することは、表現力を測定するのに適切な問題と考える。文章の内容に即しながら自由に想像し、しかも、50字程度という制限を設けている。

(4) 言語事項……ア 漢字の読み、イ 漢字の書き取り、ウ ローマ字の読み・書き、エ 国語辞典の活用(活用形の理解)等を調査する。漢字については「配当漢字は正しく読め、書けると同時に、使っていく」というねらいがある。漢字は「読む・書く」以外においても、いろいろな場面で学んでいる。これまで学んだ漢字を意識して活用してほしいという願いがある。二通りに読む漢字は、その漢字により通過率に差が出るだろう。漢字の書き取りも同様なことが予想される。

ローマ字は、4年生で学習する内容であるが、指導する時数も限られており、理解度を測定するのにも、結果はある程度予測されるが、ワープロにしろパソコンにしろローマ字入力を行う機会が多い現在、その必要性は高まっている。今後の指導のあり方を考えるのに重要な資料となるであろう。

国語辞典の活用は、現在4年生から求められているが、新学習指導要領では指導目標・内容が2学年ずつ示されているので、活用の時期が早まると思われる。動詞の活用形の学習も早まることだろう。以上、出題のねらいを述べてきたが、調査結果が今後の国語指導に活用されることを切に願っている。

(河西泰道 ベネッセ教育研究所顧問)

「出題の方針」は、p.67を参照。

2. 通過率・得点分布

1. 通過率

表2-2-1は、設問別の通過率を示したものである。【音声言語】領域についてのみ

準正解を設定した。【文学的文章】領域を除けば、領域内の通過率に大きなばらつきがみられる。また、【言語事項】領域の「ローマ字の読み・書き」の通過率の低さが他の設問と比較して際だっている。準正解を設定した

表2-2-1 国語の設問別通過率

(%)

大問 - 小問	領域	内容	通過率	正解率	準正解率
[1] (1) ① (1) ② (2) (3) (4)	音声言語	話の内容の聞き取り	90.3	83.0	7.3
		話の内容の聞き取り	79.1	51.2	27.9
		質問の仕方	50.4	50.4	—
		質問の内容	56.3	56.3	—
		自分の考えの表現	78.9	40.1	38.8
[2] (1) (2) (3) (4)	説明的文章	細部の正確な読み取り	52.4	52.4	—
		語句の意味・使い方	60.1	60.1	—
		接続語の使い方	85.1	85.1	—
		段落相互の関係	20.3	20.3	—
[3] (1) (2) (3) (4) (5) (6)	文学的文章	語句の意味・使い方	68.2	68.2	—
		細部の読み取り	64.4	64.4	—
		心情の変化の読み取り	65.6	65.6	—
		心情の変化の読み取り	63.5	63.5	—
		細部の読み取り	57.6	57.6	—
		続き話の創作	56.7	56.7	—
[4] (1) ① (1) ② (1) ③ (2) ① (2) ② (2) ③ (2) ④ (2) ⑤ (3) ① (3) ② (3) ③ (3) ④ (4) ① (4) ② (4) ③ (4) ④ (5) ① (5) ② (5) ③ (5) ④	言語事項	漢字の読み	66.1	66.1	—
		漢字の読み	83.3	83.3	—
		漢字の読み	41.6	41.6	—
		漢字の書き取り	73.7	73.7	—
		漢字の書き取り	67.0	67.0	—
		漢字の書き取り	74.8	74.8	—
		漢字の書き取り	60.6	60.6	—
		漢字の書き取り	55.7	55.7	—
		ローマ字の読み・書き	47.7	47.7	—
		ローマ字の読み・書き	33.3	33.3	—
		ローマ字の読み・書き	36.9	36.9	—
		ローマ字の読み・書き	32.4	32.4	—
		熟語の書き取り	48.3	48.3	—
		熟語の書き取り	62.9	62.9	—
		熟語の書き取り	30.8	30.8	—
		熟語の書き取り	76.4	76.4	—
		活用の理解・辞書の利用	82.8	82.8	—
		活用の理解・辞書の利用	47.3	47.3	—
		活用の理解・辞書の利用	69.1	69.1	—
		活用の理解・辞書の利用	83.4	83.4	—

【音声言語】領域の「自分の考えの表現」については、通過率78.9%に対して正解率40.1%にとどまっている。自分のオリジナルな考えをわかりやすく記述することの難しさがうかがわれる。なお、採点対象からは除外したが、【説明的文章】領域で「内容整理」として質問項目を設けた。その選択肢別の反応を図2-2-1に示しておく。どのような方法で文章を整理するのかという学習活動をめぐって、児童の思考のタイプが反映されているのではないだろうか。

2. 得点分布

図2-2-2は、国語の得点分布を示した

ものである。いずれの問題も、通過した場合を1点として個人の得点を算出した。これを見ると、ほぼ正規分布に近い山型となっている。平均点は21.2点、標準偏差は7.25であった。

3. 算数と国語の相関

算数と国語の関係をみるために得点の散布図を図2-2-3に示した。相関係数は、0.690である。図からも明らかのように、小学校の算数と国語には正の相関関係がある。

(諸田裕子 お茶の水女子大学大学院博士課程)

図2-2-1 説明的文章：内容の整理 選択肢別反応率

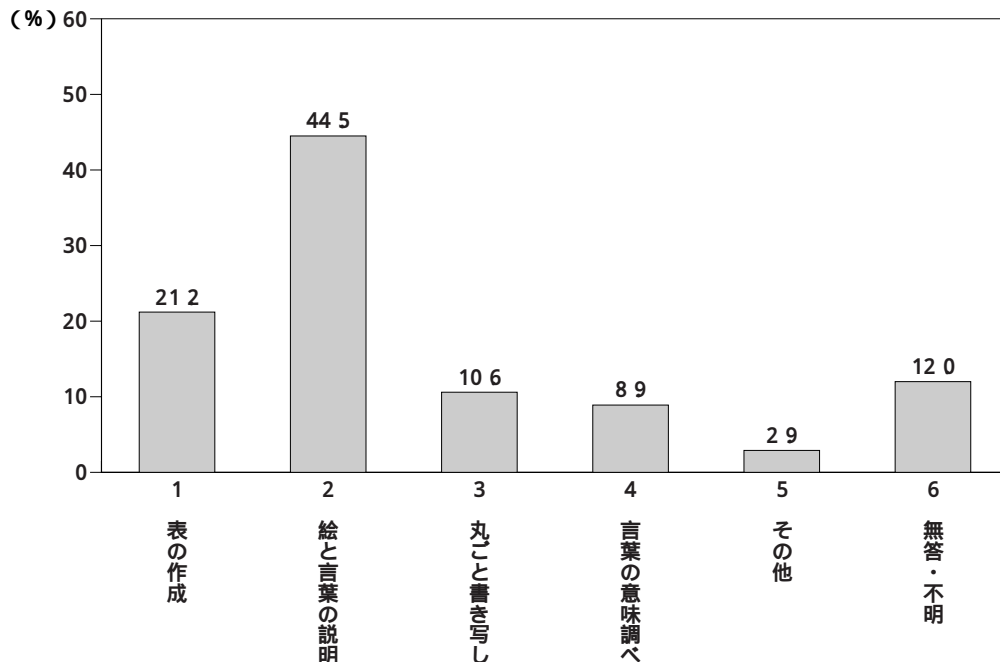


図2-2-2 国語の得点分布

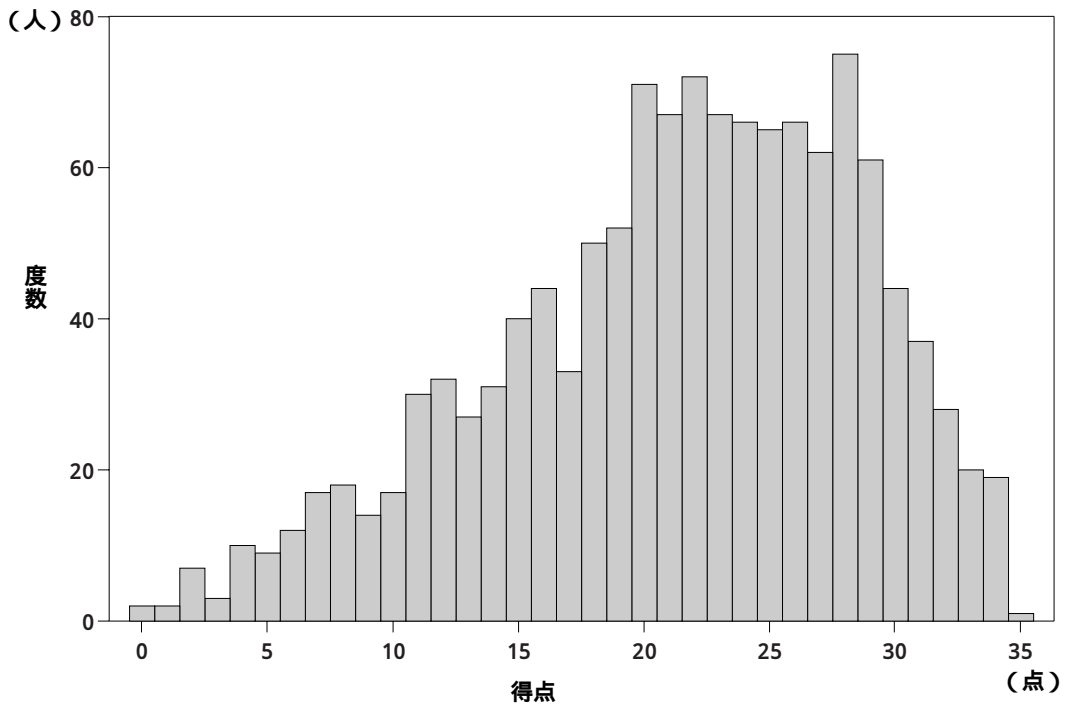
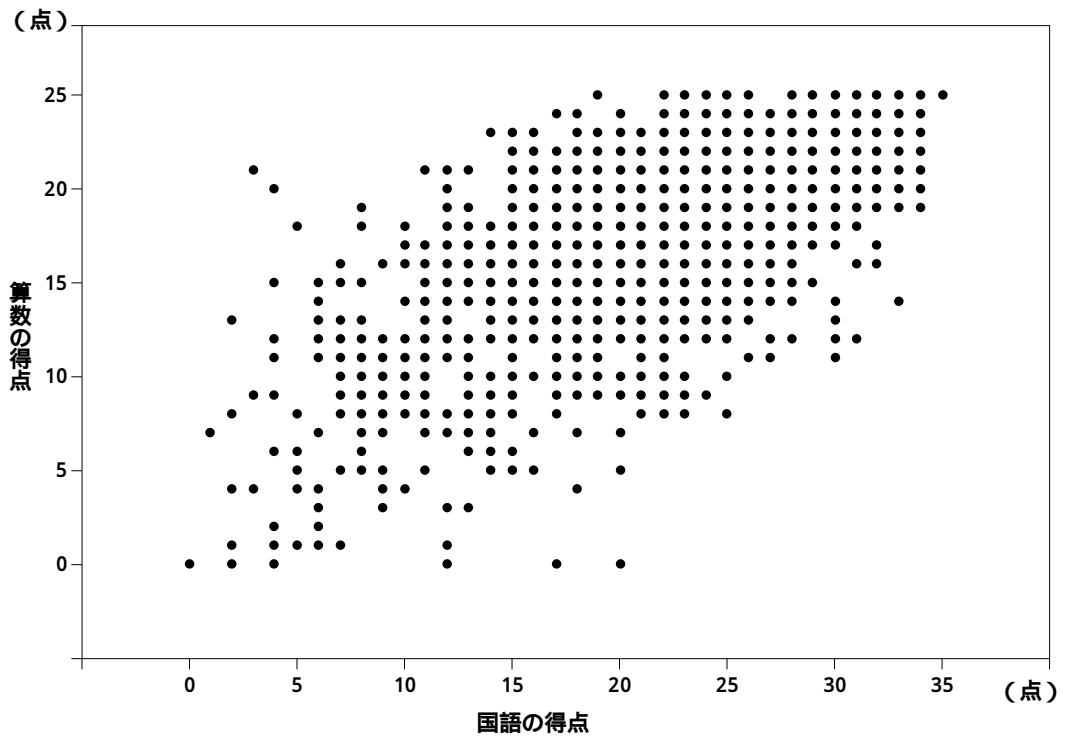


図2-2-3 算数得点と国語得点の相関



資料 調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

国語

□ 【放送問題】

(ナレーター)

最初に、話を聞き取る問題を始めます。調査票はこうしたままにしてください。大事なところでは、調査票の表紙のメモらんにメモを取りながら、テープを聞いてください。

あなたのクラスに栄養士の先生が来て、健康に良い食事の仕方について、お話をしてくれることになりました。お話は2回くりかえします。聞いた後、調査票を聞いて、後の問題に答えましょう。

栄養士の先生の話・一回目

(栄養士)

食事は、わたしたちが健康な生活を営むために、たいへん大切なものです。ですから、みなさんも、食事の大切さを理解し、正しい食事の仕方を心がけるようにしましょう。

食事の仕方でお話をすることを、今日は二つお話しします。

一つ目は、決まった時こくに食事をすることです。みなさんの中には、朝食を食べないで学校に来る人がいるようですが、それは食事の仕方として正しいものではありません。わたしたち人間の体にはリズムがあります。正しい生活をして、決まった時こくに食事をしないと、体のリズムがこわれてしまうのです。体のリズムがこわれると、機気がかりやすくなり、健康な生活が送れなくなります。

二つ目は、栄養のバランスがとれた食事をすることです。最近では、野菜をほとんど食べずに肉ばかり食べる人が多くなりました。しかし、わたしたちは体の調子を養うために、ビタミンなどを多く含む野菜もたくさん取らなくてはなりません。栄養のバランスを考えて食事をすることが、わたしたちの健康を保つためには必要なことです。

みなさんも、健康に良い食事の仕方についてクラスで話し合ってみてください。

(ナレーター)

今のお話をもう一度くりかえします。

栄養士の先生の話・二回目

(栄養士)

省略

(ナレーター)

それでは、調査票を聞いて、□の問題に答えてください。

1 今のお話を聞き取ったことをもとに、後の問いに答えましょう。

(1) 栄養士の先生はお話の中で、食事の仕方であげられることを二つ挙げています。それは、どうすることですか。それぞれを に書きましょう。

【解答例】

決まった時こくに食事をすること。

栄養のバランスがとれた食事をすること。

(2) 一週間後に、クラスの代表が栄養士の先生の所に行つて質問することにになりました。質問に行く前に、クラス全員でこのようなことをしておきましょう。次の中から二つ選び、 に記号で答えましょう。

- ア クラス全員が聞きたいことを出し合つて、質問することを知る。
- イ 質問に行くクラスの代表だけで、質問する内容をまとめる。
- ウ できるだけ、質問に思うことは本で調べたり、担任の先生に聞いたりして、あらかじめ調べておく。
- エ クラス全員から出た質問すべてを栄養士の先生に聞く計画で、質問を準備する。

(3) 今のお話について栄養士の先生にする質問としてよいと思うものを次の中から二つ選び、 に記号で答えましょう。

- ア 健康を保つために、食事以外で注意しなければならないことは何か。
- イ 食事の仕方では注意することは、そのほかにとんなどがあるのか。
- ウ 栄養のバランスがとれた食事をするためには、野菜のほかにとんなどを食べたらよいのか。
- エ 人間の体の仕組みは、どのようなになっているのか。

【分野】 音声言語

【内容】 話の内容の聞き取り

【出題のねらい】 話の中心点を聞き取る。

【採点基準】 ①「決まった時こくに食事をすること」という内容を書いているのは正解（十分満足）。「決まった時こく」のみしか書いていないものや、簡潔にまとめていないものは、準正解（おおむね満足）とする。②「栄養のバランスをとる」という内容を書いているのは正解。「栄養のバランス」のみしか書いていないものや、簡潔にまとめていないものは、準正解とする。

栄養士の先生は「食事の仕方であげられることを、今日は二つお話しします」といった後、「二つ目は…」と説明している。この中心点を聞き取れていないものは、不正解（努力を要する）とする。

【分野】 音声言語

【内容】 質問の仕方

【出題のねらい】 質問の内容のまとめ方や準備の仕方を理解する。

【採点基準】 二つともできて正解。

【分野】 音声言語

【内容】 質問の内容

【出題のねらい】 相手や場に応じ、内容の軽重を考えて質問する。

【採点基準】 二つともできて正解。

資料 調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

(イ) 栄養士の先生のお話を聞いて、あなたがあなたの食事の仕方であつた
 と思うことはどのようなことですか。三十字くらいで、自分の考えを自由
 に書きましょう。

【解答例】

好	き	き	ら	い	を	な	く	し	て	、	き
ら	い	な	も	の	も	し	つ	か	り	食	べ
る	よ	う	に	し	た	い	。				

三十字

2 次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

- 一 とんぼは、空中に停止することも、急角度に方向を変えることも、高速で飛ぶことも、そして、急に飛び立つこともできます。とんぼは、ほかの多くの昆虫にはまねのできないような、器用な飛び方をするのできるのです。
- 二 では、とんぼは、なぜ、^①こうして器用な飛び方をするのできるのでしょうか。
- 三 まず、頭に感いうかぶのは、グライダーのように細長い^②体^③に、やなぎの葉のような楕円の羽を四まいつけた、体の形のことでしよう。いかにも、空を飛ぶのにふさわしい形といえます。
- 四 しかし、体の形だけでは、なぜ、あのように器用な飛び方ができるのか、よくわかりません。④、^⑤もんやんまが飛んでいる様子を、特別なカメラで記録して、くわしく調べてみました。
- 五 飛んでいるときの羽の動きをよく見ると、四まいの羽は、ななめ前方に向かつて打ち下ろされています。後ろ羽が先に動き、前羽は少しおくれて打ち下ろれます。羽を上げるときには、上げやすいようにひねります。数えてみると、一秒間に、三十回もはばいています。
- ……………<中略>……………
- 六 このように、とんぼは、前羽と後ろ羽を別々に、すばやく動かして飛んでいます。ですから、あのような器用な飛び方をするのできるのです。
- 七 空を飛ぶほかの昆虫、たとえばちょうは、うちわのような前羽と後ろ羽を、いっしょに動かしてはばきます。別々に動かすことはできません。一秒間にはばたく回数も、十回ほどです。ですから、かわらわとした飛び方になり、とんぼのように器用には飛べないのです。
- (取 附 「飛び方のひみつ」より)

● 一 ① ⑤ はだん線の番号を表しています。

(注) *1 グライダー＝エンジンと空を飛ぶ必要のないでつばで風に吹かれて空を飛ぶ乗り物。
 *2 もんやんま＝体長約八センチメートルのオオアゲハのオス。

【分野】 音声言語
 【内容】 自分の考えの表現
 【出題のねらい】 自分の考えを明確にし、整理して表現する。
 【採点基準】 二十字以上五十字以内で、食事の仕方というテーマにそつて「気をつけたいこと」が書かれていれば正解。単に本文のくりかえしとなる内容は、準正解とする。文意が伝わらないものや、字数の指定を大きく逸脱しているものは不正解とする。

(1) ①と同じ語用な飛び方^①にあてはまるものを次の中から一つ選び、に記号で答えましょう。

- ア グライダーのように細長い体をしている。
- イ 空中に停止することができる。
- ウ 前羽と後ろ羽をすばやく動かすことができる。
- エ 急角度に方向を変えられることができる。
- オ ななめ前方に向かって羽を打ち下ろしている。

イ

エ

(2) ②と同じ意味の言葉^②を次の中から一つ選び、に記号で答えましょう。

- ア まるで イ どうしても
- ウ だぶん エ だしかに

エ

(3) ③^③にあてはまる言葉として最も合うものを次の中から一つ選び、に記号で答えましょう。

- ア そりで イ しかも
- ウ たとえは エ ところが

ア

(4) ④^④でん蔭の答えがまとめて述べられているだん蔭が二つあります。一つは、体の形のことを述べた⑤^⑤だん蔭です。それでは、もう一つは何だん蔭ですか。にだん蔭の番号を一つ書きましょう。

六 だん蔭

★質問（これはテストではなくレポートです。思ひだしたことを書きましょう。）

あなた以上の文章の^⑥段落をノートにまとめるつもりです。後で戻したときにわかりやすくまとめるために、どのようにならざるべきか。次のア～オの中から一つ選び、記号を○で囲みましょう。

- ア とんぼとちようの飛び方のちがいを、表にして書く。
- イ とんぼの姿をかいて、言葉の段落を加える。
- ウ いちばん大切なだん蔭をまるごと1つ書き写す。
- エ わからない言葉の意味を辞書で調べ、ノートに書く。
- オ その他 ⑦のものをなぞりかきこくだけだ

【分野】 説明的文章
 【内容】 細部の正確な読み取り
 【出題のねらい】 文章に即して内容を正しく読み取り、指示語の示している言葉や内容を的確に指摘する。

【採点基準】 一つともできて正解。

【分野】 説明的文章
 【内容】 語句の意味・使い方
 【出題のねらい】 語句にはさまざまな意味があることを理解し、文章中での正しい意味をとらえる。

【分野】 説明的文章
 【内容】 接続語の使い方
 【出題のねらい】 前後に書かれている内容を理解し、適切な接続語を使う。

【分野】 説明的文章
 【内容】 段落相互の関係
 【出題のねらい】 段落相互の関係をとりえ、文章の中心的事柄を読み取る。

【分野】 説明的文章
 【内容】 内容の整理
 【出題のねらい】 文章理解における思考の過程を、適切な方法で表現する。
 【採点基準】 これではなければならないという正解はない。

資料 調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

【夏だからかっている犬の夕口を道いにかけて、たつちゃんは「この先 ゆきとまりはいらないください」と書かれた立て札のおくの小道にはいつていきました。】

たつちゃんは、そと小道にはいつていきました。ゆつくり歩かないと、ササの枝が顔にはねかえってきます。やぶはますます深くなくて、たつちゃんの背だけの二倍はあるでしょう。そのやぶの中を、せまい小道はずつと登り坂で、上へ上へと続いているのです。ようやくすこし平らな道になつたと思つたら、いきなりササやぶがなくなって、静かな静かな松林の中になりました。

足もとには、かれた松の落葉が [] ① と積もっていて、なんだかいい気持ちでした。上を見あげると、高いこすえの向こうで秋のお日さまがちらちらとゆれていました。

さあつと風が吹きなりました。坂をあがってきたたつちゃんの汗が、すつとひつこみきました。松林に吹く風は、びつくりするほどやさしくやわらかに響きました。

そのまま、なだらかな松林の丘を登つていくと、右下の谷間に、ちらちらと [] ② が見えてきました。道には緑の葉がまれはびんでいて、とても暖かそうでした。

[] ③

しばらくのぞきこむように眺めていたたつちゃんは、そこまでいつてみようかな、と思いました。

松林はずれだ、ほつこりと日の当たった和れ草の土手がありました。たつちゃんは、いい匂いのするふかふかの草に顔をおろしました。それから、照いきつてあおむけはねここんで、うーんと手袋を脱ぎました。

なんともいえないいい気分でした。目をくみると、そのまま眠つてしまいうでした。でも、たつちゃんはむつくりと起きあがりました。

[] ④

そうです。たつちゃんは、ついさきまで町の真ん中にはいました。切り通しの道は、丘の上の団地へ抜ける近道ですから、このあたりには、コンクリートでできた大きなアバウトが、いくつも並んでいくてはいけないのです。

たつちゃんは、大いそぎで松林にもとると、いざん高い見晴らしのきくところまで駆け登りました。でも、ここから見えるのは、たつちゃんの知らない田舎の景角でした。

………〈中略〉………

たつちゃんは、ちろつとちろえました。寒くなつたのではなく、なんだか、まてはいけないうこにまてしまった、という気がしたのです。

[] ⑤

いそいで、ちろちろ登つてきた、やぶの小道のほうへ駆け降りました。そしてやぶの前で立ちすくみました。小道が見つからないのです。

(佐藤あさ子「この先ゆきとまり」より)

(注) *1 こすえ 木の幹や枝の先

*2 団地 集居のこと。

*3 切り通し 山や丘を切り開いて通つた道。

(1) ㉑ にあはまる言葉として最も合うものを次の中から一つ選び、 に記号で答えましょう。

- ア そつくり イ ゆつくり
- ウ ちつくら エ ひらひら

ウ

【分野】 文学的文章
 【内容】 語句の意味・使い方
 【出題のねらい】 様子を差すのにふさわしい語句を選び、文脈にそって適切に使う。

(2) 「お前の心風が吹きおたりました。」とありますが、このときの風はどのようなものでしたか。その説明として最も合うものを次の中から一つ選び、 に記号で答えましょう。

- ア たつちんをこまらせる、いじわるな風
- イ たつちんの体を暖める、とてもやわらかな風
- ウ たつちんを喜ばせる、楽しくゆかいな風
- エ たつちんを気持ちよくさせる、ちよやかな風

エ

【分野】 文学的文章
 【内容】 細部の読み取り
 【出題のねらい】 叙述の細かい点に注意して、場面の様子や人物の気持ちを想像しながら読み取る。

(3) 文章の中の ㉓ ㉔ ㉕ には、たつちんが心の中で考えたことが入ります。次の ㉖ ㉗ を入れるとき、どのような順番になりますか。最も合うものをア～エの中から一つ選び、 に記号で答えましょう。

- ㉖ = (たいくんだ。ほく、すくにかえらなくちやいけなみだ)
- ㉗ = (まともだ)
- ㉘ = (たはじ。こんなところこんな静かな山や谷があるなんて、ちよつとくんだ)

- ア ㉓ ↓ ㉔ ↓ ㉕
- イ ㉖ ↓ ㉗ ↓ ㉘
- ウ ㉖ ↓ ㉕ ↓ ㉗
- エ ㉘ ↓ ㉗ ↓ ㉖

ウ

【分野】 文学的文章
 【内容】 心情の変化の読み取り
 【出題のねらい】 場面の様子の移り変わりや、人物の気持ちの変化を想像しながら読み取る。

(4) この文章の中で、たつちんの気持ちはどのように変わりましたか。最も合うものを次の中から一つ選び、 に記号で答えましょう。

- ア 心配 ↓ さわやか
- イ ゆつたり ↓ 不安
- ウ すつまり ↓ 喜び
- エ のんびり ↓ つかれ

イ

【分野】 文学的文章
 【内容】 心情の変化の読み取り
 【出題のねらい】 場面の様子の移り変わりや、人物の気持ちの変化について、内容を大きくまとめて読み取る。

資料 調査票（到達度テスト・小学5年生用紙）

(5) 「立ちすくみまじら。」とありますが、このときたつちさんのようすはどのようなものでしょうか。最も合うものを次の中から一つ選び、 に記号で答えましょう。

- ア どうやってタロを買つけよふか、立つたまま考えた。
- イ どうしていいかわからなくなり、立つたまま動けなくなつた。
- ウ どこからまたか思い出そうとして立ちたりすわたりした。
- エ もう一度田舎の奥街を見たいと、背のびをして立つた。

イ

(6) 「小道が見つからないのです。」とありますが、たつちさんは、この後どうなると思いますか。自由に想像して五十字くらいで書きましょう。

【解答例】

た	つ	ち	や	ん	が	歩	き	回	つ	て	小
道	を	さ	が	し	て	い	る	と	、	犬	の
タ	ロ	に	会	い	ま	し	た	。	そ	の	後
を	つ	い	て	い	く	と	、	小	道	が	見
つ	か	り	ま	し	た	。					

五十字

4 次の問題に答えましょう。

(1) く例) にならつて送りがなに合うように、 に漢字の読みを二通り書きましょう。

例) 生	う	まれる	① 着	つ	く
	い	まる		き	る
	つめ	たい		おほ	える
② 治	ひ	える	③ 寝	せ	める

【分野】 文学的文章

【内容】 細部の読み取り

【出題のねらい】 内容の理解に必要な語句の意味を、文脈の中で正しくとらえる。

【分野】 文学的文章

【内容】 続き話の創作

【出題のねらい】 自分の理解した内容に基づいて、自分の感じ方をもとに物語の続きの展開を予測して表現する。

【採点基準】 主人公がその後どうなったかについて、物語の内容や主題をふまえて書いていれば正解。字数は「五十字くらい」という指示を守っているかどうかを見るため、三十字から六十字を正解とする。

続きの内容としては、主に次の三点。

- ① 主人公が「小道をさがす」行為について書いている。
- ② 「小道が見つからない」という主人公の不安な心情について書いている。
- ③ ファンタジーとしての特徴を理解し、たとえば、非現実の世界として物語の続きを展開させている。

【分野】 言語事項

【内容】 漢字の読み

【出題のねらい】 送りがなに合わせて、漢字を二通りの読み方で読む。

【採点基準】 いずれの問いも、二つともできて正解。

(2) 次の□の中にあてはまる漢字を書きましょう。

① 本を **借** りる。
か

② **笛** を吹く。
ふえ

③ **大臣** になる。
だいじん
たいり


④ こみを **拾** う。
ひろ

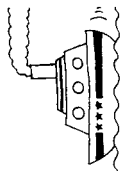
⑤ **不便** な方法。
ふべん

(3) ①と②はローマ字の読みをひらがなで、③と④は絵の名前をローマ字で□に書きましょう。

① k i t t e
きって

② z i d o s y a
じどうしゃ

③ 
n e k o

④ 
h u n e

【分野】言語事項

【内容】漢字の書き取り

【出題のねらい】第三、第四学年に配当されている漢字を正しく書く。

【採点基準】細かい止め、はね、はらいなどについては不問にする。

【分野】言語事項

【内容】ローマ字の読み・書き

【出題のねらい】簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書く。

【採点基準】①②漢字、カタカナで書いているものは不正解。③「じどーしゃ」は不正解。④大文字と小文字の混在は不問にする。④「hune」も正解。

資料 調査票（到達度テスト・小学5年生国語）

(4) 〈例〉にならって、 に漢字を入れて、上にある意味を表すしゅく語を作りましょう。

- 〈例〉からだの温度…………… 体 温
- ① ともしたいしい友^{とも}…………… 親 友
- ② いちばんはじめ…………… 最 初
- ③ はたらくこと…………… 労 働
- ④ 火をけすこと…………… 消 火

(5) 〈例〉にならって、①～④の——線言葉为国語辞典で調べるときの形に直して に書きましょう。

〈例〉馬が走^はっている。

- ① あなたを信^{しん}じます。
- ② 先を争^まわないでください。
- ③ 行動を改^かめれば静^{しず}かです。
- ④ つくえの上に本を置^おきます。

- 走 る
- 信 じる
- 争 う
- 改 める
- 置 く

問題は「これ」終わりです。

【分野】言語事項
 【内容】熟語の書き取り
 【出題のねらい】言葉の意味をもとに簡単な熟語を書く。
 【採点基準】細かい止め、はね、はらいなどについては不問にする。

【分野】言語事項
 【内容】活用の理解・辞書の利用
 【出題のねらい】活用について意識し、国語辞典で調べられるように語句を終止形にする。
 【採点基準】送りがなの誤りや、「改める」と「改まる」のように、他動詞と自動詞を間違えたものは、不正解とする。

3. 調査結果解説

1. 音声言語

①(1)の出題のねらいは、話の中心点を聞き取ることである。通過率は「決まった時こくに食事をする事」が90.3%、「栄養のバランスがとれた食事をする事」が79.1%であった。比較的、期待通りの結果であった。誤答傾向としては、「野菜をたくさん取る事」、「ビタミンを多く取る事」など話の中心ではない部分を答えたり、「最近、野菜を食べずに肉ばかり……」という食事傾向への具体的な注意事項を答えたりする児童が多い。指導のポイントとしては、「1つ目」「2つ目」という順序を表す言葉に注目させて、2つの内容から話が構成されていることに気づかせることが大切である。そして、具体的な言葉と抽象的な言葉とのかかわりがあることを指導する必要がある。特に、「肉ばかり食べる」「ビタミンなどを多く含む野菜」と「栄養のバランス」とのかかわりを考えさせ、単語ではなく文で説明できるようにしたい。

①(2)は、質問の内容のまとめ方や準備の仕方を理解することをねらいとした。通過率は50.4%で、正解「ア・ウ」(完全解答)のうち「ア」を選択することができて「ウ」を選択できない児童が多く、その場合、「エ」を誤答として解答する傾向がみられた。これは、疑問に思うことを絞るという学習経験がないことやクラス全員の疑問すべてを質問することの意義を肯定する意識傾向が根強いと思われる。指導のポイントとしては、何のために質問を絞るのか話し合わせたり、相手の立場や気持ちを考えて相手意識を持たせる指導が必要になる。そのために、栄養士の先生がどんな立場なのか、どんな仕事をしているのか、質問する職業への認識を深めさせるこ

とが大切である。その上で、質問をどのように絞って準備をすればよいか考えさせたい。

①(3)は、相手や場に応じ、内容の軽重を考えて質問することをねらいとした。通過率は60%にやや足りず、予想よりやや低い結果である。誤答傾向としては、「ア」を選ぶ児童が多かった。これは、(2)と同じように栄養士の先生という職業や仕事について理解が不十分であるか、単に自分の質問したいことを選択しているのか、どちらかであろう。食事の仕方が話の中心であることに気づかせたり、栄養士の先生の視点に立たせたりする指導が必要である。例えば、ロールプレイングを取り入れ、相手の立場や考え方を考えさせることも大切である。

①(4)は、自分の考えを明確にし、整理して表現することをねらいとしている。自分の考えを書いている正解率は、約40%である。本文の内容をくり返し述べている解答は準正解としたが、それを入れた通過率だと約80%になる。つまり、通過したものの半数が本文の再構成であることがわかる。誤答の中には、大幅に指定された字数をオーバーしていたり、足りなかったりするものがあり、オーバーしているものは自分の考えになっているものが多いが、不足しているものは内容の再構成にとどまっているもの、食事の仕方という観点を逸脱しているものが多い。指導のポイントとしては、問題文に示されている食事の仕方についての問題を自分の生活と照らし合わせながら考えさせることが大切である。つまり、自分の問題として自分に引きつけて書いているかが、理解と表現の違いの重要なポイントになってくる。そのためには、相手の話から自分の生活を振り返り、自分の課題を持たせることが大切である。

(田島亮一 東京都杉並区立新泉小学校教諭)

2. 説明的文章

②(1)は、文章の叙述に即して内容を正確に読み取り、指示語の示している言葉や内容を的確に指摘できるかどうかを問う設問である。

指示語の示す内容の把握は、中学年の中心的な指導内容の1つであることを考えると、52.4%という通過率は低い。

誤答傾向としては、示された指示語の直後に書かれている内容である「ア」を選んでいる児童が多かった。

指示語は、前の内容を受けて使われるという指導を徹底する必要がある。

(2)は、文脈の中で、語句の意味をとらえることができるかを問う設問である。「いかにも」には、「①どう見ても」、「②なるほど、たしかに」の2つの意味があるが、文脈の中でとらえると②の意味となる。

通過率は60.1%で、誤答の8割以上が、「ア」の「まるで」を選択している。「いかにも」という言葉は、子どもが日常で使っている言葉ではないために、意味をとらえにくかったということが誤答の要因として考えられる。

文脈の中で、よりふさわしい意味をとらえる学習は、今後もていねいに行われるべきである。

(3)は、前後に書かれている内容を理解し、適切な接続語を使うことができるかどうかを問う設問である。

通過率は85.1%で、おおむね満足できる結果であった。

誤答の傾向としては、半数が「たとえば」を選択している。後に続く内容が具体的な実験内容であるために、この言葉を選択してしまったと考えられる。

基本的な接続語の使い方は、中学年で定着をめざしたい。

(4)は、段落相互の関係をとりえ、文章の中心的事柄を読み取ることができるかどうかを問う設問である。

通過率は20.3%と、大変低いものとなった。この問題を考えるためには、次の2つのことを理解することが必要である。1つは、問題 実験・観察 結論という論の展開に対するおよその理解。もう1つは「このように」が、それまでの内容をまとめるときに使われるということの理解である。

誤答の7割は、第5段落を選んでいった。この段落は、観察の結果を具体的に書いている段落であり、まとめにはなっていない。しかし、児童は具体的な数値の提示につられて選択してしまったということが考えられる。文章の段落相互の関係については、意図的な指導の積み重ねが必要であることを痛感する。

(1)~(4)の設問のほかに、「質問」では文章理解の過程を、児童がどのような方法で表現しようとするかを尋ねた。この質問は採点から除外してある。

理解力の高い児童ほど、自分の理解をより適切な形で表現しようとするのではないかという仮説に基づいて設問が設定されている。つまり、対比的に述べられている文章の内容をまとめるには、対比されている内容をとらえやすいような形で表現しようとするのではないかということである。

およそのことではあるが、「ア」を選んだ児童は、②(1)細部の正確な読み取りの問題や、②(3)接続語の使い方を問う問題で正解する割合が高いということがわかった。つまり、文章の内容や流れを正確にとらえる力を身につけている児童が、「ア」を選択する傾向がみられたということである。

この「質問」に関しては、「学習に関する意識・実態調査」との連携も図り、今後さらに綿密な分析が必要である。

3. 文学的文章

③(1)は、文脈に沿って語句を適切に使うことができるかを問う設問である。

通過率は68.2%であった。積もる落ち葉は児童にとってイメージしやすいものであろう

が、あまり高い数値とはならなかった。

誤答の傾向をみると「イ ゆっくり」、「エ ひらひら」を選んだ児童が誤答全体の4割ずつみられた。落ち葉のイメージがこれらの言葉に結びついてしまったものと考えられる。文脈に沿って適切な語句を使用したり、使われている語句の意味をとらえたりするのは、文章理解の基本である。今後もよりよい指導致が必要である。

(2)は、文章の細部を的確に読み取ることができるかを問う設問である。

通過率は64.4%であった。誤答をみると、9割が「イ」の「やわらかな風」を選択している。これは、設問箇所の直後に「風が……やわらかに響いた」という叙述があるためと考えられる。「イ」は「体を温める」というところが明らかな間違いなのであるが、本文はもとより、設問の選択肢に対してよい読み取りが必要になる。

(3)は、場面の様子や人物の心情の変化を問う設問である。文章全体の流れを把握して答えを求めなければならないために、難度の高い設問ではないかと考えていたが、通過率は65.6%と、予想以上に好結果となった。

誤答の傾向をみると、「イ」が6割を超えている。「すてきだな」から「たいへんだ」の流れはおよそつかんでいるが、「ちょっとへんだ」というその過程に入るはずの微妙な気持ちが十分にとらえられていないための誤答であろう。

(4)は、登場人物の心情の変化を問う設問である。

通過率は63.5%で、まずまずの結果であるといえる。誤答の傾向としては「ア」が7割に近く、文章の展開とは反対の流れを選択している。

文学的文章の読みの学習は、場面ごとに区切って進めるという方法が多い。その結果、文章全体の流れをとらえる学習が十分でなくなるといのが今後の課題であろう。

(5)は、語句の意味を文脈の中で的確にとらえることができるかを問う設問である。

通過率は57.6%と、あまり高くなかった。

誤答では、「ウ」が半数に近かったが、これは前後の文脈から考えようとしている子どもの姿の表れとしてとらえることができる。「立ちすくむ」という語句の意味そのものを理解していることが大切であるが、今までに出合わなかった語句の意味を文脈の中で予想してあてはめてみるという読みの活動は大切である。

(6)は、自分の理解した内容に基づいて、物語の続きの展開を予想して書けるかを問う設問である。

通過率は6割に満たなかったが、白紙の少なさから、どの児童にも書こうという意欲はみられた。

書かれ方の傾向としては、登場人物になって一人称で書かれたものと、作者になって三人称で書かれたものとの、大きく二分された。文字数の制限など、採点基準をゆるめれば、通過率はさらに上がると予想できる。

(青木伸生 筑波大学附属小学校教諭)

4. 言語事項

④(1)の出題のねらいは、送りがなに合わせ、漢字を二通りの読み方で読むことである。解答傾向としては、「冷」の通過率が83.3%と高く、「覚」が41.6%と低かった。これは、「さめる」という読み方が読みかえ漢字として4年生では十分指導されていないことが原因であろう。また、「着」は66.1%と予想より通過率が悪かったが、「つく」「きる」の送りがなが一音で、読みが連想しにくいことが原因として考えられる。文章を作らせる中で送りがなを指導することが大切であろう。

(2)は、第3・第4学年に配当されている漢字を正しく書くことが出題のねらいである。「借りる」「笛」「大臣」が70%前後の通過率であり、「捨う」「不便」は60%前後の通過率である。誤答傾向としては、「捨」が「給」「捨」や、「臣」が「巨」、「便」が「更」「使」「俟」などに誤るケースが多い。やはり、部首の間

違いや類似したつくりとの間違いが多い。指導のポイントとして、部首が意味を表していること、漢字の意味と部首とのかかわりなどをていねいに指導することが必要である。

(3)は、簡単な単語について、ローマ字で表記されているものを読み、また、ローマ字で書けるかどうかをみることをねらいとしている。「kitte」が50%弱、「zidôsyā」「neko」「hune」が35%前後という通過率で、正解する割合が低かった。誤答として多いのは、「neco」「nico」「huno」「hone」のように母音や子音の表記が間違っていたり、「heko」のように「n」と「h」との区別ができていなかったりするものである。また、ローマ字を読めるが書けない解答も多かった。この問題では、4問ほとんど書けていないケースが多くみられ、ローマ字の指導時数が十分ではない様子うかがえる。日頃からローマ字を意図的に使用したり、ローマ字表を掲示して言語環境の一部として位置づけておいたりするなど日常的な指導が必要であろう。

(4)のねらいは、言葉の意味をもとに簡単な熟語を書くことである。通過率は「親友」と「最初」が約50～60%であるが、「労働」は約30%と低く、逆に「消火」は約80%と高かった。誤答傾向としては、「親」を「新」、「働」を「動」、「苦」、「初」の衣へんを示すへんと間違えて書いたケースが多かった。同じ音の間違えやすい漢字の意味と使い方を指導することが大切である。また、部首の指導も必要であろう。

(5)は、活用について意識し、国語辞典で調べられるように語句を終止形にできるかどうかをみた。「信じる」「改める」「置く」は通過率が高かったが、「争う」は47.3%にとどまった。誤答には、「争そう」のように送りがない間違い、「争い」「争わない」のように終止形になっていない間違いが多くみられた。指導のポイントとしては、終止形の形式に多く触れさせるために、国語辞典を日常的に引くようにすることが大切である。

(田島亮一 東京都杉並区立新泉小学校教諭)

4 . コメント

[1]

尾木和英 (東京女子体育大学教授)

最初に通過率に関する全体的な状況をみただ上、次に内容領域ごとに、検討が必要であると思われるもの、問題ありと考えられるものを中心に考察を加えることとする。

1 . 通過率の概要

本調査の通過率を全体的にみると、80%を超える数値を示したものも5設問あるが、通過率60%に達していない設問がかなりの数に上っている。

正解率でみると、60%に達しないものは17設問におよび、全設問のほぼ半分になる。この結果は、設問の内容や出題の仕方とも関係するので一概に判断を下すことは難しいが、50%に達しないものについての着目とともに、1つの問題提起として受け止める必要がある。

内容領域別に通過率をみると、同じ領域の中でも設問によってばらつきのあることが認められる。調査結果の検討・活用際には、内容領域全体としての把握と同時に、設問の内容に即して、学習状況にどのような傾向が認められるか、きめ細かな検討を加えることが求められる。

比較の上では、「文学的文章の読み」に関する内容は、57%から68%の間で平均した通過率を示している。

逆に全体的に低い数値を示しているのが言語事項に属す「ローマ字の読み・書き」である。提出されている4設問の通過率の平均は37.6%となっている。ローマ字の読み書きに関しては、コンピュータ使用の際の入力を中心に、学習活動において必要とされる機会が少なくない。それだけに、この結果について

はさらにつつこんだ検討を加えることが求められよう。

2 . 音声言語に関して

①(1)の「話の内容の聞き取り」に関しては、それぞれ90.3%、79.1%の通過率を示している。「1つ目は」「2つ目は」がほぼ聞き取れていることから、話の内容を聞き取る基礎的な力についてはついていると考えてよからう。

これに対して、①(2)の質問の仕方に関する設問の通過率は50.4%にとどまっており、質問の内容のまとめ方や質問の仕方を理解することについては十分とはいえない面があると言えよう。

①(4)の設問は、聞き取ったことを基にしてという点では音声言語に属すが、30字くらいにまとめて書くということで、書くことに関する力もかかわっている。採点基準にその点が考慮されているが、通過率は78.9%となっており、自分の考えを明確にして表現する力はほぼついていると考えられる。

3 . 説明的文章の読み

②(1)は指示語の内容の読み取りの設問である。通過率が52.4%にとどまっていることから、文脈の正しい読みの力は、十分にはついていないものと考えられる。

②(3)の接続語の用法に関する設問は、通過率85.1%となっており、前後の内容から考えて適切な接続語を使用する力についてはついていると考えられる。

問題があるのは②(4)の段落相互の関係に関する設問である。「なぜ、こうした器用な飛

び方をすることができるのでしょうか」という問いかけを受けている段落の理解に関して、通過率は20.3%となっている。低い通過率にとどまった理由として、この設問の問いは単純ではないので、あるいはこの設問の意味を理解できなかった者が含まれているかもしれないが、やはり、第三段落の「まず、頭に思いうかぶのは」、第四段落の「しかし、体の形だけでは」といった表現に着目し、各段落に表現されている内容と段落相互の関係を正しく読み取る力が十分についていない者が多数であったものと考えられる。

4. 文学的文章の読み

③(1)から③(4)までの設問の通過率はすべて60%台であり、この数値の解釈については意見の分かれるところであろう。

③(5)は通過率57.6%となっており、文脈の理解、語の意味を理解しての人物の様子を読み取りの力について、必ずしも十分とは言えないことを示している。

③(6)は、①物語の内容の理解に立ち、②その後の展開について想像し、③50字程度の文字数でまとめる、という3つの要素を持った出題である。設問の内容が単純ではないだけに、56.7%の通過率を一概に低いとすることはできないであろう。

5. 言語事項について

漢字の読みでは、④(1)の③が通過率41.6%となっている。その漢字を読むことができるかどうかは、一般的に、その読みに触れる機会の頻度によって左右される。読みが難しいと思われる漢字については、その扱いに配慮

が必要であることを示唆している。

漢字の書き取りに関しては、1問を除いて、60～70%台の通過率となっている。

④(2)の⑤は、通過率55.7%となっている。

その漢字が書けるかどうかは、一般的に、その漢字の画数や構成に関する難しさ、その漢字を含む語に触れる機会、読みとの関係での難しさ、などによるところが大きいものと考えられる。漢字の指導の際に、そういった点も視野に入れることが求められていることを示唆している。

ローマ字の読み・書きについては、30～40%台の通過率となっており、力がついていないことを示している。

ローマ字は、案内板の表示や情報機器における使用など、児童の生活にとって必ずしも遠い存在ではないが、仮名・漢字に比べれば使用頻度が低い。それだけに、指導計画の工夫等によって、学習機会を設定することが重要であることを示唆している。

熟語の書き取りの通過率は、④(4)の①が48.3%、④(4)の③が30.8%となっており、力がついていないことを示している。

熟語の書き取りに関しては、その熟語が理解されていない場合、熟語は知っているが、漢字を正確に書くことができない場合があるものと考えられる。この結果は、両面からの指導の必要を示唆するものと言えよう。

④(5)は、活用の理解・辞書の利用に関する設問であるが、1問を除いて69～83%の通過率となっている。

④(5)の②が通過率47.3%となっている。活用形によって、助動詞との関係などで終止形が判断しにくい場合が考えられる。辞書を用いての学習機会といった工夫が必要であることを示唆するものと言えよう。

[2]

大熊 徹 (東京学芸大学教授)

1. 調査問題と採点基準について

調査問題の難易度は、小学校5年生を対象とする問いとしては標準的であり、正解や許容範囲を示す採点基準も多方面からの配慮が行き届いている。

ただし国語科では、記述式の解答に関する採点基準が殊の外難しい。たとえば、③(6)の採点基準などである。この小問は、「正解」を比較的幅広く許容しているため、評価基準は「正解」と「不正解」の二通りしか設定されていない。それはそれで問題はないのだが、たとえば①(4)のように、「準正解」を設定することもできるのではないかと考えられるところである。

2. 通過率からみる全体的傾向

全般的に通過率の高い領域は③の文学的文章の読みである。①音声言語領域の通過率も各小問とも50%以上を示し、比較的安定している。

それに対して、②説明的文章の読みの領域と④言語事項の領域は、結果にかなりバラツキがみられる。とりわけ、②説明的文章の読みの通過率は、最高85.1%から最低20.3%までと幅が広い。また、④言語事項領域では、特定の分野の通過率がきわめて低いことが気にかかるところである。

以下、領域ごとに調査結果について考えてみよう。

3. 音声言語領域の調査結果

①は、話を聞く力と聞いたことを基にして考えたことを書く力を問う問題である。小学校、中学校、高等学校の新学習指導要領の国

語科の教科目標に「伝え合う力」という文言が加えられたことからわかる通り、これからの国語教育においては、話をしたり、聞いたり、話し合ったりする力、つまり、コミュニケーション能力の育成がきわめて大事なものととなる。

とりわけ、これからは聞く力が大事になる。遠藤栄(放送大学客員教授)によれば、アメリカの大学のテキストには「聞き手がコミュニケーションの責任の51%を負う」と述べられているそうである。聞き手の存在の重要さが指摘されているのである。

さて、①の通過率を各小問ごとに見てみよう。(1)が90.3%と79.1%、(2)が50.4%、(3)が56.3%、(4)が78.9%と全般的に高い傾向を示している。

相対的にみてやや低い(2)は、子どもたちが今までにいかなる学習をしてきたか、教師がいかなる指導をしてきたかが選択項目に影響を与えてしまうことも考えられる。たとえば、選択肢「イ」は誤答ではあるが、このような指導を受けた子どもも少なからずいることであろう。しかし、そのような場合でも、設問の文言「クラス全員でどのようなことをしておけばよいですか」を考慮すれば、選択肢「イ」はふさわしくないことになるのである。

同じく(3)について考えてみよう。選択肢「ウ」は問題ないが、もう1つは選択肢「ア」か選択肢「イ」かが問題となる。そこで、考えなければならないことは、質問をする相手が栄養士の先生ということである。栄養士の先生に対する質問なのであるから、選択肢「ア」の「食事以外で注意しなければならないこと」よりも、選択肢「イ」の「食事の仕方」で注意することは、そのほかに「のぼうがふさわしいのである。

いちばん高度な問題は(4)であるが、これは、採点基準に「準正解」まで設定してあるため

に妥当な結果が得られたのであろう。

4．説明的文章の読みの調査結果

第15期中教審の第1次答申（1996年7月）には、初等中等教育で育成を重視する資質・能力の1つとして「論理的思考力や科学的思考力を育てること」とある。また教課審の答申（1998年7月）には、読むことの領域の具体的な事項として「目的や意図に応じて、要点や要旨などを読み取る能力」の育成を重視することが示されている。②はこれらにかかわる問題である。

さて、②の通過率は、かなりのバラツキがみられる。接続語を考える問題③の通過率85.1%や、文章の詳細な部分までを正確に読み取る力をみる①、②の通過率52.4%、60.1%と比較して、④の通過率がきわめて低い。④は、文章全体の段落構成、具体的にいえば、課題解答方式の段落構成をとらえる力をみる問題である。このような問題を解く力としては、何よりも文章全体を視野に入れた上での論理的思考力が要求される。そのような力がやや不十分という結果である。

この結果は、1994年2月に行われた文部省（当時）初等中等教育局の「教育課程実施状況に関する総合的調査研究」の調査結果とかなりの点において符合する。調査報告書（1997年12月）の該当箇所を引用しよう。

「文章の構成や叙述に即して細部を正確に読み取ることは満足できる状況であったが、意見と事実を読み分けたり、要旨をとらえてそれを自分の言葉で文章表現したりすることは、やや不十分であった。」（p.71）

5．文学的文章の読みの調査結果

③は登場人物の心情や場面の情景を豊かに想像して読む力、さらに、読んだことを基にして、豊かに想像したことを文学的に書く力を問う問題である。

先に紹介した教課審の答申（1998年7月）では、従来の国語科の指導のあり方を「文学的な文章の詳細な読解にかたよりがちであった」と指摘し、その指導のあり方を改めるように指示している。

しかし、③の通過率をみる限りにおいては、いずれの小問の通過率も高く安定している。これまでの国語科の指導によって子どもたちに文学的な文章を読む力が育ってきたことを示しているといえよう。

やはり、教課審の答申（1998年7月）が指示しているような「読書に親しむ態度を育てる」素地はできていると言えよう。

6．言語事項の調査結果

④は、①漢字の読み、②漢字の書き取り、③ローマ字の読み・書き、④熟語の書き取り、⑤国語辞典の利用・活用の理解を問う小問からなっている。

漢字の書き取りは比較的通過率が高い。これも、先に引用した「教育課程実施状況に関する総合的調査研究」の調査結果と符合する。他の小問は、通過率にバラツキが目立つが、とりわけローマ字の読み・書きの通過率が低い。これは、社会的に英語教育への注目度が高まっている影響から、ローマ字指導が軽視されていることの表れとも考えられる。